

第2回学校運営協議会

12月16日（金）に第2回学校運営協議会を開きました。
和やかに話し合いが進みました。
そこで、「熟議」とあわせて意見交換が行われました。



(1)

【熟議1】「進んで行動する生徒」の育成に関するその成果と課題

【熟議2】学校、家庭、地域の抱える課題、問題から学校運営を考える。

学校:成果

生徒の意見を吸い上げ、行動させることで主体性を育てるようにしている。

各委員会でのポジティブなキャンペーンの実施、合唱コンクールでは3年生が自分たちから発声練習の実施を提案、実現させるなど、主体的な取り組みが増えた。

ボランティア活動も盛んになってきた。今後、校則見直し検討委員会も実施する。

課題

子どもたちのやりたいことを吸い上げるシステムづくり

家庭:成果

令和3年度から継続している「レッツトライ自主性」は、3日間のチャレンジを呼びかけていたが、短期間では難しい側面も出てきた。ただし、実際に取り組んだ家庭からは、「声かけをやめてみたら、自分なりに考えるようになってきた」という声も聞いている。

課題

親の困りごとを共有したい。集まって話し合うのが難しい人もいるため、SNSのオープンチャットを試行的に始めたが、ルール作りが必要であることも明らかになった。

また、やはり対面で話すことの重要性も再認識されており、学校に集まれる人が集まりフリートークをするような機会の設定が必要なのではないか。例えば、ベルマーク集計などの「作業をしながらの会話の場」づくりが有効ではないか。

地域:成果 ウォークラリー、春光園草取り、春岡ふれあいフェスティバルともに生徒の参加があり、よくやってくれた。参加生徒からは「楽しかった」という感想がたくさんでした。

課題 そもそも、中学生がイベントを知らない、浸透していないという側面があることに気づいた。

自治会から直接各家庭への呼びかけも併せて行くと参加率が上がるかもしれない。

ボランティアが楽しいということを伝えていかないといけない。

(2)

その他 意見交換

・校則について

小中一貫の観点からも、春野小とのすり合わせということも必要ではないか。

・学校以外の居場所

不登校生徒が引きこもらないようにする受け皿の必要性について。

・ボランティアの方向性

ボランティアはきっかけとして半分強制(部活動単位での参加など)も必要ではないか。

避難所運営訓練等への参加も今後検討したい。



生徒が自分の居場所をしっかりと実感できるようにするために、学校・家庭・地域がそれぞれの立場から生徒を支えていくことを確認し、今後の実践につなげていきます。

次回は、令和5年2月27日(月)です。
「今年度の振り返りと次年度の見通しの熟議」をする予定です。